

簡易水道事業特別会計

簡易水道事業特別会計は、二ツ井地域の富根、仁鮎地区を対象に給水事業を行うための特別会計である。

1 決算規模

①二ツ井町

(単位：円、%)

区 分	予算現額	歳入決算額	歳出決算額	歳入歳出差引額	予算執行率	
					歳入	歳出
17年度	249,832,000	30,589,881	156,474,583	-125,884,702	12.2	62.6
16年度	25,641,000	25,565,474	25,565,474	0	99.7	99.7
比較増減	224,191,000	5,024,407	130,909,109	-125,884,702	-87.5	-37.1
増減率	874.3	19.7	512.1	皆増	—	—

①二ツ井町は、平成18年3月20日までの打ち切り決算である。

歳入歳出差引額は125,884,702円の赤字で、金融機関から150,000,000円を一時借り入れすることにより賄い、残り24,115,298円が歳計剰余金として新市に引き継がれている。

②新市

(単位：円、%)

区 分	予算現額	歳入決算額	歳出決算額	歳入歳出差引額	予算執行率	
					歳入	歳出
17年度	243,209,000	238,326,381	227,477,612	10,848,769	98.0	93.5

②新市は、平成17年度における合併後の11日間の決算である。

歳入歳出差引額は10,848,769円で、二ツ井町からの歳計剰余金24,115,298円が歳入に含まれているほか、二ツ井町の一時借入金150,000,000円は、平成17年度出納閉鎖までに全額返済されている。

③通年推計（参考）

(単位：円、%)

区 分	予算現額	歳入決算額	歳出決算額	歳入歳出差引額	予算執行率	
					歳入	歳出
17年度	249,683,583	244,800,964	233,952,195	10,848,769	98.0	93.7
16年度	25,641,000	25,565,474	25,565,474	0	99.7	99.7
比較増減	224,042,583	219,235,490	208,386,721	10,848,769	-1.7	-6.0
増減率	873.8	857.5	815.1	皆増	—	—

③通年推計は、監査委員が独自に通年ベースの数値を推計したものである。

当年度の決算額は、歳入244,800,964円、歳出233,952,195円、歳入歳出差引額10,848,769円となっている。前年度と比較して歳入で約8.6倍、歳出で約8.2倍と大幅に増加している。これは、当年度で配水管布設工事が実施されたことにより、例年に比べ事業費が多くなったことによるものである。

2 予算の執行状況

ここでは、合併前・合併後に分離せず、通年ベースで推計した数値のみ記載している。
なお、予算現額は、別々に推計していることから歳入と歳出が一致しない場合がある。

①歳入

(単位：円、%)

区 分	予算現額	調定額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	収入率
使用料及び手数料	25,018,927	24,923,010	24,923,010	0	0	100.0
国庫支出金	68,454,000	68,454,000	63,569,000	0	4,885,000	92.9
財産収入	1,953	953	953	0	0	100.0
繰入金	9,008,000	9,008,000	9,008,000	0	0	100.0
繰越金	0	0	0	0	0	—
諸収入	1,001	1	1	0	0	100.0
市(町)債	147,300,000	147,300,000	147,300,000	0	0	100.0
歳入合計	249,783,881	249,685,964	244,800,964	0	4,885,000	98.0

使用料及び手数料の収入済額は24,923,010円で、前年度と比較して5,358,425円(27.4%)の増である。

国庫支出金の収入済額は63,569,000円で、前年度実績はなく、当年度、配水管布設等を実施した簡易水道事業建設工事に対する国庫補助金である。なお、この国庫補助金は、事業費を翌年度へ繰り越したことにより、一部が収入未済額となっている。

繰入金の収入済額は9,008,000円で、前年度と比較して3,008,000円(50.1%)の増となり、一般会計繰入金である。

諸収入の収入額は1円であり、全額、普通預金利子である。なお、新市では、旧市町歳計剰余金として24,115,298円の決算額となっているが、通年ベースで推計した場合、重複したものとして差し引かれるため、本表には同金額を表していない。

市(町)債の支出済額は147,300,000円で、前年度実績はなく、国庫補助金と同様に当年度実施された配水管布設工事のための起債である。

②歳出

(単位：円、%)

区 分	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額	執行率
簡易水道事業費	249,255,583	233,756,661	15,104,950	393,972	93.8
公債費	411,000	195,534	0	215,466	47.6
諸支出金	—	—	—	—	—
予備費	17,000	0	0	17,000	0.0
歳出合計	249,683,583	233,952,195	15,104,950	626,438	93.7

簡易水道事業費の支出済額は233,756,661円で、前年度と比較し208,191,187円(814.3%)の増となり、この主な内容は、配水管布設工事である。予算額のうち15,104,950円は、繰越明許費として翌年度へ繰り越されている。

公債費の支出済額は195,534円で、当年度から発生している。

なお、諸支出金については、新市における支出済額が150,000,000円となっているが、これは旧市町借入金返済金で、合併時の一時借入金の返済であり、通年ベースで推計した場合、重複したものとして差し引かれるため、本表には表していない。

予備費は、簡易水道事業費のうち営業費へ83,000円充用している。

下水道事業特別会計

下水道事業特別会計は、能代地域内の事業認可区域を対象に下水道事業を行うための特別会計である。

1 決算規模

①能代市

(単位：円、%)

区 分	予算現額	歳入決算額	歳出決算額	歳入歳出差引額	予算執行率	
					歳入	歳出
17年度	1,945,897,000	1,171,159,939	1,336,120,132	-164,960,193	60.2	68.7
16年度	2,071,605,000	1,886,119,517	1,870,154,970	15,964,547	91.0	90.3
比較増減	-125,708,000	-714,959,578	-534,034,838	-180,924,740	-30.8	-21.6
増減率	-6.1	-37.9	-28.6	-1,133.3	—	—

①能代市は、平成18年3月20日までの打ち切り決算である。

歳入歳出差引額は164,960,193円の赤字で、一般会計からの繰替使用164,960,193円で賄っている。

②新市

(単位：円、%)

区 分	予算現額	歳入決算額	歳出決算額	歳入歳出差引額	予算執行率	
					歳入	歳出
17年度	776,765,000	636,244,583	615,081,514	21,163,069	81.9	79.2

②新市は、平成17年度における合併後の11日間の決算である。

歳入歳出差引額は21,163,069円で、能代市における一般会計からの繰替使用164,960,193円は、平成17年度出納閉鎖までに一般会計へ全額返済されている。

③通年推計（参考）

(単位：円、%)

区 分	予算現額	歳入決算額	歳出決算額	歳入歳出差引額	予算執行率	
					歳入	歳出
17年度	1,943,461,132	1,807,404,522	1,786,241,453	21,163,069	93.0	91.9
16年度	2,071,605,000	1,886,119,517	1,870,154,970	15,964,547	91.0	90.3
比較増減	-128,143,868	-78,714,995	-83,913,517	5,198,522	2.0	1.6
増減率	-6.2	-4.2	-4.5	32.6	—	—

③通年推計は、監査委員が独自に通年ベースの数値を推計したものである。

当年度の決算額は、歳入1,807,404,522円、歳出1,786,241,453円であり、歳入歳出差引額21,163,069円となっている。前年度と比較して歳入78,714,995円(4.2%)、歳出83,913,517円(4.5%)、それぞれ減となっている。

2 予算の執行状況

ここでは、合併前・合併後に分離せず、通年ベースで推計した数値のみ記載している。
 なお、予算現額は、別々に推計していることから歳入と歳出が一致しない場合がある。

①歳入

(単位：円、%)

区 分	予算現額	調定額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	収入率
分担金及び負担金	57,317,000	73,733,020	57,903,650	3,037,970	12,791,400	81.9
使用料及び手数料	321,394,603	341,237,653	328,387,536	327,257	12,522,860	96.3
国庫支出金	289,000,000	289,000,000	242,500,000	0	46,500,000	83.9
繰入金	644,424,000	644,424,000	644,424,000	0	0	100.0
繰越金	15,964,000	15,964,547	15,964,547	0	0	—
諸収入	7,558,000	7,624,789	7,624,789	0	0	100.0
市債	612,200,000	510,600,000	510,600,000	0	0	100.0
歳入合計	1,947,857,603	1,882,584,009	1,807,404,522	3,365,227	71,814,260	96.2

分担金及び負担金の収入済額は57,903,650円で、前年度と比較して627,150円（1.1%）の減となっている。また、不納欠損額は前年度と比較して379.4%の大幅増となっているが、これは負担能力があると判断し不納欠損処分を留保してきた未納者について、既に時効により債権が消滅している部分を一括して処理したものである。

使用料及び手数料の収入済額は328,387,536円で、前年度と比較して8,954,338円（2.8%）の増である。なお、下水道使用料については、17年度において15年度及び16年度工事分の賦課漏れが発覚し、当該事務の改善が図られているところであり、賦課漏れ分の納付状況は、平成18年7月末現在で賦課漏れ160件、5,312,001円に対し、完納81件、一部納付57件、納入済額の合計が3,307,204円で、納入率は62.3%となっている。

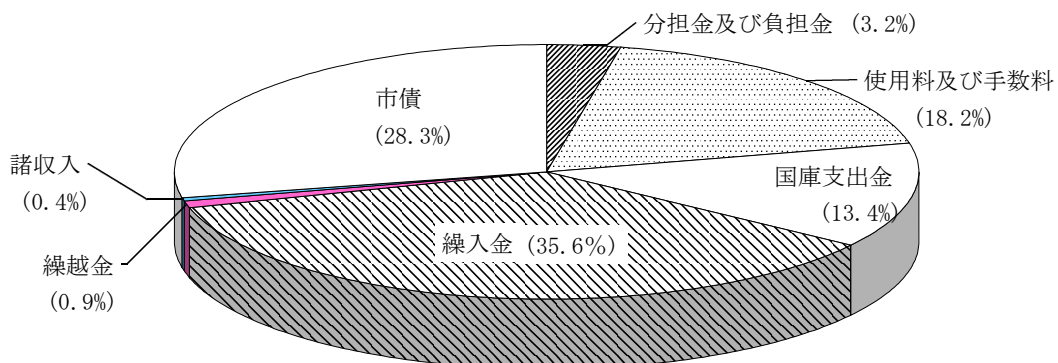
国庫支出金の収入済額は242,500,000円で、前年度と比較し143,000,000円（143.7%）の増となっており、これは前年度から下水道事業費の一部が繰り越されたことに伴うものである。

繰入金の決算額は644,424,000円で、前年度と比較して128,566,000円（16.6%）の減となっている。

繰越金の収入済額は15,964,547円で、前年度繰越金である。

市債の収入済額は510,600,000円で、前年度と比較して111,200,000円（17.9%）の減で、この主な要因は、下水道事業債が増加しているが、前年度280,800,000円であった借換債が大幅減になったことによるものである。

下水道事業特別会計・歳入の構成



②歳出

(単位：円、%)

区 分	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額	執行率
総 務 費	1,150,718,446	993,884,162	155,900,000	934,284	86.4
公 債 費	792,742,686	792,357,291	0	385,395	100.0
諸 支 出 金	—	—	—	—	—
歳 出 合 計	1,943,461,132	1,786,241,453	155,900,000	1,319,679	91.9

総務費の支出済額は993,884,162円で、前年度と比較し228,566,825円(29.9%)の増となっており、この主な内容は、一般管理費のほか、終末処理場管理費、幹線工事等の下水道事業費、公債費である。予算額には、前年度からの繰越額197,700,000円が含まれるほか、大雪による幹線工事等の遅れにより翌年度繰越額が155,900,000円となっている。

公債費の支出済額は792,357,291円で、元金505,908,829円、利子286,448,462円である。

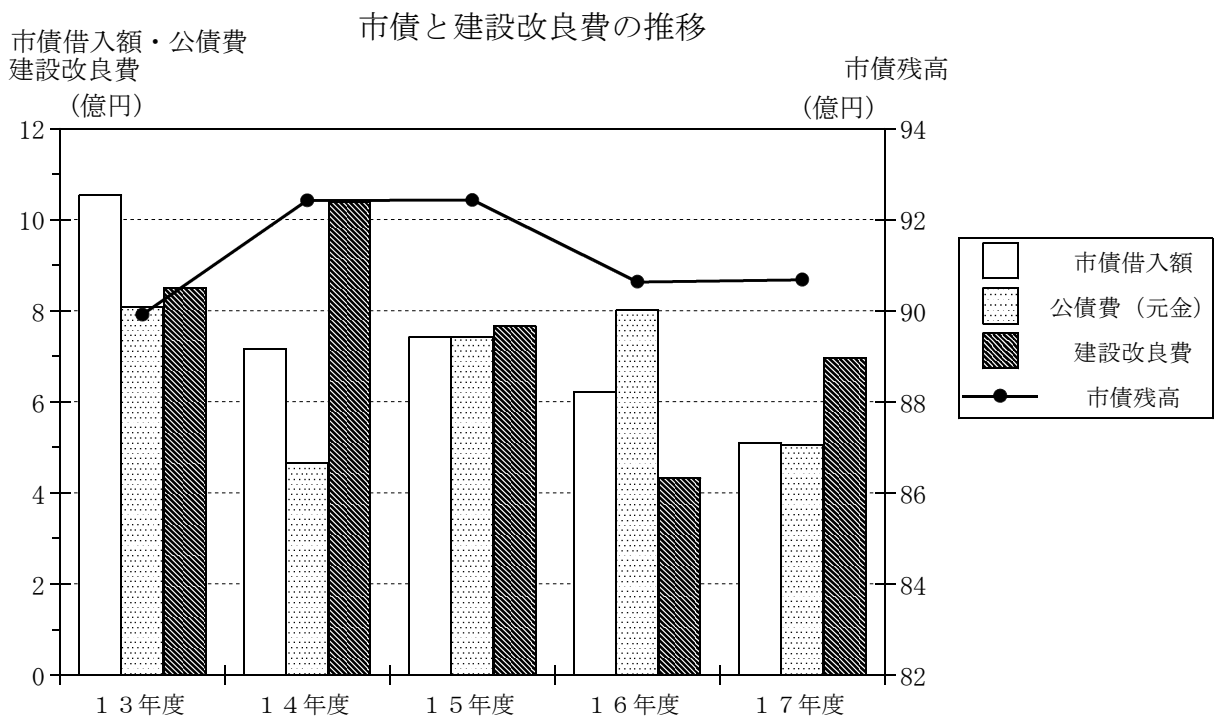
なお、諸支出金については、新市における支出済額が164,960,193円となっているが、これは旧市町借入金返済金で、合併時の一時借入金の返済であり、通年ベースで推計した場合、重複したものとして差し引かれるため、本表には表していない。

また、能代市で5件、2,747,159円、新市で2件、200,959円の予算流用があった。

主に処理区域を拡大するための幹線及び枝線工事を行う建設改良費と市債の借入額及び公債費の推移は次のとおりである。

区 分	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
市債借入額	1,053,600	716,600	742,600	621,800	510,600
公債費(元金)	809,162	465,676	741,932	801,212	505,909
建設改良費	850,400	1,039,800	766,200	432,300	696,800
市債残高	8,991,220	9,242,144	9,242,812	9,063,400	9,068,092

※借入額及び公債費(元金)には、それぞれ借換債及びそれに伴う償還金が含まれる。



農業集落排水事業特別会計

農業集落排水事業特別会計は、能代地域内の事業認可区域を対象に農業集落排水事業を行うための特別会計である。

1 決算規模

①能代市

(単位：円、%)

区 分	予算現額	歳入決算額	歳出決算額	歳入歳出差引額	予算執行率	
					歳入	歳出
17年度	18,002,000	17,411,697	14,671,147	2,740,550	96.7	81.5
16年度	16,654,000	16,309,608	16,303,947	5,661	97.9	97.9
比較増減	1,348,000	1,102,089	-1,632,800	2,734,889	-1.2	-16.4
増減率	8.1	6.8	-10.0	48,311.1	—	—

①能代市は、平成18年3月20日までの打ち切り決算で、歳入歳出差引額は2,740,550円であり、同額が歳計剰余金として新市に引き継がれている。

②新市

(単位：円、%)

区 分	予算現額	歳入決算額	歳出決算額	歳入歳出差引額	予算執行率	
					歳入	歳出
17年度	2,817,000	3,328,899	2,782,176	546,723	118.2	98.8

②新市は、平成17年度における合併後の11日間の決算である。
歳入歳出差引額は546,723円で、能代市からの歳計剰余金2,740,550円が歳入に含まれている。

③通年推計（参考）

(単位：円、%)

区 分	予算現額	歳入決算額	歳出決算額	歳入歳出差引額	予算執行率	
					歳入	歳出
17年度	18,002,000	18,000,046	17,453,323	546,723	100.0	97.0
16年度	16,654,000	16,309,608	16,303,947	5,661	97.9	97.9
比較増減	1,348,000	1,690,438	1,149,376	541,062	2.1	-0.9
増減率	8.1	10.4	7.0	9,557.7	—	—

③通年推計は、監査委員が独自に通年ベースの数値を推計したものである。
当年度の決算額は、歳入18,000,046円、歳出17,453,323円、歳入歳出差引額546,723円となっている。前年度と比較して歳入で1,690,438円(10.4%)、歳出1,149,376円(7.0%)、それぞれ増となっている。

2 予算の執行状況

ここでは、合併前・合併後に分離せず、通年ベースで推計した数値のみ記載している。
 なお、予算現額は、別々に推計していることから歳入と歳出が一致しない場合がある。

①歳入

(単位：円、%)

区 分	予算現額	調定額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	収入率
分担金及び負担金	620,000	620,000	620,000	0	0	100.0
使用料及び手数料	3,552,000	3,551,385	3,551,385	0	0	100.0
繰入金	13,823,000	13,823,000	13,823,000	0	0	100.0
繰越金	5,000	5,661	5,661	0	0	100.0
諸収入	2,000	0	0	0	0	—
歳入合計	18,002,000	18,000,046	18,000,046	0	0	100.0

分担金及び負担金の収入済額は620,000円で、前年度と比較して940,000円(60.3%)の減となっている。

使用料及び手数料の収入済額は3,551,385円で、前年度と比較して31,687円(0.9%)の増である。

繰入金の収入済額は13,823,000円で、前年度と比較して2,731,000円(24.6%)の増となっている。これは、一般会計繰入金である。

繰越金の収入済額は5,661円で、前年度繰越金である。

なお、諸収入の決算額については、新市で旧市町歳計剰余金として2,740,550円の決算額となっているが、通年ベースで推計した場合、重複したものとして差し引かれるため、本表には同金額を表していない。

②歳出

(単位：円、%)

区 分	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額	執行率
農業集落排水費	6,429,000	5,881,233	0	547,767	91.5
公債費	11,573,000	11,572,090	0	910	100.0
歳出合計	18,002,000	17,453,323	0	548,677	97.0

農業集落排水費の支出済額は5,881,233円で、前年度と比較し243,997円(4.3%)の増となっている。この主な内容は、処理場等維持管理業務委託料等の管理費である。

公債費の支出済額は11,572,090円で、前年度と比較して905,379円(8.5%)の増となっている。

また、能代市で2件、12,230円の予算流用があった。

浄化槽整備事業特別会計

浄化槽整備事業特別会計は、二ツ井地域内を対象に浄化槽整備事業を行うための特別会計で、合併前は戸別合併処理浄化槽整備事業特別会計という名称であった。

1 決算規模

①二ツ井町

(単位：円、%)

区 分	予算現額	歳入決算額	歳出決算額	歳入歳出差引額	予算執行率	
					歳入	歳出
17年度	174,467,000	117,495,112	135,646,955	-18,151,843	67.3	77.7
16年度	185,788,000	185,575,333	184,650,818	924,515	99.9	99.4
比較増減	-11,321,000	-68,080,221	-49,003,863	-19,076,358	-32.6	-21.7
増減率	-6.1	-36.7	-26.5	-2,063.4	—	—

①二ツ井町は、平成18年3月20日までの打ち切り決算である。

歳入歳出差引額は18,151,843円の赤字で、一般会計からの繰替使用18,151,843円で賄っている。

②新市

(単位：円、%)

区 分	予算現額	歳入決算額	歳出決算額	歳入歳出差引額	予算執行率	
					歳入	歳出
17年度	59,978,000	56,884,225	55,969,750	914,475	94.8	93.3

②新市は、平成17年度における合併後の11日間の決算である。

歳入歳出差引額は914,475円で、能代市における一般会計からの繰替使用18,151,843円は、平成17年度出納閉鎖までに一般会計へ全額返済されている。

③通年推計（参考）

(単位：円、%)

区 分	予算現額	歳入決算額	歳出決算額	歳入歳出差引額	予算執行率	
					歳入	歳出
17年度	174,171,955	174,379,337	173,464,862	914,475	100.1	99.6
16年度	185,788,000	185,575,333	184,650,818	924,515	99.9	99.4
比較増減	-11,616,045	-11,195,996	-11,185,956	-10,040	0.2	0.2
増減率	-6.3	-6.0	-6.1	-1.1	—	—

③通年推計は、監査委員が独自に通年ベースの数値を推計したものである。

当年度の決算額は、歳入174,379,337円、歳出173,464,862円、歳入歳出差引額914,475円となっている。前年度と比較して歳入で11,195,996円(6.0%)、歳出11,185,956円(6.1%)、それぞれ減となっている。

2 予算の執行状況

ここでは、合併前・合併後に分離せず、通年ベースで推計した数値のみ記載している。
 なお、予算現額は、別々に推計していることから歳入と歳出が一致しない場合がある。

①歳入

(単位：円、%)

区 分	予算現額	調定額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	収入率
分担金及び負担金	7,115,000	7,115,430	7,115,430	0	0	100.0
使用料及び手数料	37,022,000	38,078,180	36,933,970	0	1,144,210	97.0
国庫支出金	20,399,000	20,399,000	20,399,000	0	0	100.0
繰入金	75,342,000	75,342,000	75,342,000	0	0	100.0
繰越金	924,000	924,515	924,515	0	0	100.0
諸収入	865,000	864,422	864,422	0	0	100.0
市(町)債	32,800,000	32,800,000	32,800,000	0	0	100.0
歳入合計	174,467,000	175,523,547	174,379,337	0	1,144,210	99.3

分担金及び負担金の収入済額は7,115,430円で、前年度と比較して2,441,985円(25.6%)の減となっている。

使用料及び手数料の収入済額は36,933,970円で、前年度と比較して2,486,253円(7.2%)の増である。

国庫支出金の収入済額は20,399,000円で、前年度と比較して10,712,000円(34.4%)の減である。これは、合併処理浄化槽設置整備事業費補助金である。

繰入金の収入済額は75,342,000円で、前年度と比較して2,213,000円(3.0%)の増となっている。これは、一般会計繰入金である。

繰越金の収入済額は924,515円で、前年度繰越金である。

諸収入の収入済額は864,422円で、消費税還付金である。

市(町)債の収入済額は32,800,000円で、前年度と比較し2,100,000円(6.0%)の減である。

②歳出

(単位：円、%)

区 分	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額	執行率
事業費	119,309,388	119,079,852	0	229,536	99.8
公債費	54,762,567	54,385,010	0	377,557	99.3
諸支出金	—	—	—	—	—
予備費	100,000	0	0	100,000	0.0
歳出合計	174,171,955	173,464,862	0	707,093	99.6

事業費の支出済額は119,079,852円で、前年度と比較して2,745,683円(2.3%)の減である。この主な内容は、合併処理浄化槽清掃維持管理業務委託料及び合併処理浄化槽設置工事費である。

公債費の支出済額は54,385,010円で、前年度と比較して8,440,273円(13.4%)の減である。

なお、諸支出金については、新市における支出済額が18,151,843円となっているが、これは旧市町借入金返済金で、合併時の繰替使用の返済であり、通年ベースで推計した場合、重複したものとして差し引かれるため、本表には表していない。

また、二ツ井町で1件、19,000円の予算流用があった。

市場事業特別会計

市場事業特別会計は、能代地域の公設小売市場を管理運営するため特別会計である。

1 決算規模

①能代市

(単位：円、%)

区 分	予算現額	歳入決算額	歳出決算額	歳入歳出差引額	予算執行率	
					歳入	歳出
17年度	20,134,000	19,282,157	6,628,348	12,653,809	95.8	32.9
16年度	19,936,000	19,935,419	10,021,935	9,913,484	100.0	50.3
比較増減	198,000	-653,262	-3,393,587	2,740,325	-4.2	-17.4
増減率	1.0	-3.3	-33.9	27.6	—	—

①能代市は平成18年3月20日までの打ち切り決算で、歳入歳出差引額は12,653,809円であり、同額が歳計剰余金として新市に引き継がれている。

②新市

(単位：円、%)

区 分	予算現額	歳入決算額	歳出決算額	歳入歳出差引額	予算執行率	
					歳入	歳出
17年度	3,255,000	13,505,506	3,254,225	10,251,281	414.9	100.0

②新市は、平成17年度における合併後の11日間の決算である。

歳入歳出差引額は10,251,281円で、能代市からの歳計剰余金12,653,809円が歳入に含まれている。

③通年推計 (参考)

(単位：円、%)

区 分	予算現額	歳入決算額	歳出決算額	歳入歳出差引額	予算執行率	
					歳入	歳出
17年度	20,134,000	20,133,854	9,882,573	10,251,281	100.0	49.1
16年度	19,936,000	19,935,419	10,021,935	9,913,484	100.0	50.3
比較増減	198,000	198,435	-139,362	337,797	0.0	-1.2
増減率	1.0	1.0	-1.4	3.4	—	—

③通年推計は、監査委員が独自に通年ベースの数値を推計したものである。

当年度の決算額は、歳入20,133,854円、歳出9,882,573円、歳入歳出差引額10,251,281円となっている。前年度と比較して歳入で198,435円(1.0%)の増、歳出で139,362円(1.4%)の減となっている。

2 予算の執行状況

ここでは、合併前・合併後に分離せず、通年ベースで推計した数値のみ記載している。

なお、予算現額は、別々に推計していることから歳入と歳出が一致しない場合がある。

①歳入

(単位：円、%)

区 分	予算現額	調定額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	収入率
使用料及び手数料	10,220,000	10,220,364	10,220,364	0	0	100.0
繰越金	9,913,000	9,913,484	9,913,484	0	0	100.0
諸収入	1,000	6	6	0	0	100.0
歳入合計	20,134,000	20,133,854	20,133,854	0	0	100.0

使用料及び手数料の収入済額は10,220,364円で、前年度と同額である。

繰越金の収入済額は9,913,484円で、前年度繰越金である。

諸収入の収入済額は6円であり、全額、普通預金利子である。なお、新市では、旧市町歳計剰余金として12,653,809円の収入済額となっているが、通年ベースで推計した場合、重複したものと差し引かれるため、本表には同金額を表していない。

②歳出

(単位：円、%)

区 分	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額	執行率
総務費	3,516,350	3,333,456	0	182,894	94.8
公債費	6,550,000	6,549,117	0	883	100.0
予備費	10,067,650	0	0	10,067,650	0.0
歳出合計	20,134,000	9,882,573	0	10,251,427	49.1

総務費の支出済額は3,333,456円で、前年度に比較して21,980円(0.7%)の増である。これは、施設の修繕料等の一般管理費である。

公債費の支出済額は6,549,117円で、前年度に比較し161,342円(2.4%)の減となっている。

予備費は、総務費のアスベスト分析業務委託料へ61,950円充用されている。

土地区画整理事業換地清算特別会計

土地区画整理事業換地清算特別会計は、能代地域で実施された土地区画整理事業の換地清算するための特別会計である。なお、この特別会計は平成18年度も存続しているが、平成17年度新市分としては予算計上されていないため、当年度新市分の決算がない。

1 決算規模

①能代市

(単位：円、%)

区 分	予算現額	歳入決算額	歳出決算額	歳入歳出差引額	予算執行率	
					歳入	歳出
17年度	7,123,000	7,120,805	7,120,805	0	100.0	100.0
16年度	7,395,000	7,394,583	7,393,690	893	100.0	100.0
比較増減	-272,000	-273,778	-272,885	-893	0.0	0.0
増減率	-3.7	-3.7	-3.7	皆減	—	—

①能代市は平成18年3月20日までの打ち切り決算で、歳入歳出同額である。

2 予算の執行状況

①歳入

(単位：円、%)

区 分	予算現額	調定額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	収入率
使用料及び手数料	2,000	80	80	0	0	100.0
繰入金	2,462,000	2,461,210	2,461,210	0	0	100.0
繰越金	1,000	893	893	0	0	100.0
諸収入	4,658,000	4,658,622	4,658,622	0	0	100.0
歳入合計	7,123,000	7,120,805	7,120,805	0	0	100.0

使用料及び手数料の収入済額は80円で、これは督促手数料である。

繰入金の収入済額は2,462,210円で、前年度と比較して2,445,310円の増となっている。これは一般会計繰入金である。

諸収入の支出済額は4,658,622円で、前年度と比較して2,719,271円(36.9%)の減となっている。この主な内容は、長崎地区及び東能代駅前地区換地清算金収入である。

②歳出

(単位：円、%)

区 分	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額	執行率
都市計画費	7,123,000	7,120,805	0	2,195	100.0

都市計画費の支出済額は7,120,805円で、前年度と比較して272,885円(3.7%)の減となっている。この内容は、長崎地区及び東能代駅前地区換地清算交付金である。

浅内財産区特別会計

浅内財産区特別会計は、能代地域の浅内財産区の財産管理を行うための特別会計である。

1 決算規模

①能代市

(単位：円、%)

区 分	予算現額	歳入決算額	歳出決算額	歳入歳出差引額	予算執行率	
					歳入	歳出
17年度	11,348,000	11,167,210	2,071,221	9,095,989	98.4	18.3
16年度	6,396,000	6,398,901	6,178,584	220,317	100.0	96.6
比較増減	4,952,000	4,768,309	-4,107,363	8,875,672	-1.6	-78.3
増減率	77.4	74.5	-66.5	4,028.6	—	—

①能代市は、平成18年3月20日までの打ち切り決算で、歳入歳出差引額は9,095,989円であり、同額が歳計剰余金として新市に引き継がれている。

②新市

(単位：円、%)

区 分	予算現額	歳入決算額	歳出決算額	歳入歳出差引額	予算執行率	
					歳入	歳出
17年度	9,431,000	9,275,524	9,158,000	117,524	98.4	97.1

②新市は、平成17年度における合併後の11日間の決算である。

歳入歳出差引額は117,524円で能代市からの歳計剰余金9,095,989円が歳入に含まれている。

③通年推計（参考）

（単位：円、％）

区 分	予算現額	歳入決算額	歳出決算額	歳入歳出差引額	予算執行率	
					歳入	歳出
17年度	11,348,000	11,346,745	11,229,221	117,524	100.0	99.0
16年度	6,396,000	6,398,901	6,178,584	220,317	100.0	96.6
比較増減	4,952,000	4,947,844	5,050,637	-102,793	0.0	2.4
増減率	77.4	77.3	81.7	-46.7	—	—

③通年推計は、監査委員が独自に通年ベースの数値を推計したものである。

当年度の決算額は、歳入11,346,745円、歳出11,229,221円、歳入歳出差引額117,524円となっている。前年度と比較して歳入で4,947,844円(77.3%)、歳出で5,050,637円(81.7%)、それぞれ増となっている。

(2) 予算の執行状況

ここでは、合併前・合併後に分離せず、通年ベースで推計した数値のみ記載している。

なお、予算現額は、別々に推計していることから歳入と歳出が一致しない場合がある。

①歳入

（単位：円、％）

区 分	予算現額	調定額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	収入率
県支出金	273,000	273,929	273,929	0	0	100.0
財産収入	1,477,000	1,475,198	1,475,198	0	0	100.0
繰入金	9,215,000	9,215,000	9,215,000	0	0	100.0
繰越金	220,000	220,317	220,317	0	0	100.0
諸収入	163,000	162,301	162,301	0	0	100.0
歳入合計	11,348,000	11,346,745	11,346,745	0	0	100.0

県支出金の収入済額は273,929円で、流域循環林整備事業費補助金である。

財産収入の収入済額は1,475,198円で、前年度と比較して102,260円(7.4%)の増となっており、この主な内容は土地貸付収入である。

繰入金の収入済額は9,215,000円で、前年度と比較して4,981,000円(117.6%)の増であり、これは基金繰入金である。

繰越金の収入済額は220,317円で、前年度繰越金である。

諸収入の収入済額は162,301円で、この主な内容は森林整備地域活動支援交付金である。なお、新市では、旧市町歳計剰余金として9,095,989円の収入済額となっているが、通年ベースで推計した場合、重複したものとして差し引かれるため、本表には同金額を表していない。

②歳出

（単位：円、％）

区 分	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額	執行率
管理会費	304,000	293,763	0	10,237	96.6
総務費	1,886,000	1,777,458	0	108,542	94.2
諸支出金	9,158,000	9,158,000	0	0	100.0
歳出合計	11,348,000	11,229,221	0	118,779	99.0

管理会費の支出済額は293,763円で、この主な内容は財産区管理委員報酬である。

総務費の支出済額は1,777,458円で、前年度と比較して3,376,656円（65.5%）の減となっている。この主な要因は、前年度支出された裁判応訴委託料が当年度なくなったことによるものである。

諸支出金の支出済額は9,158,000円で、前年度と比較して8,461,850円（1215.5%）の増となっている。これは、浅内小学校建設事業費へ充てるための一般会計繰出金である。

常盤財産区特別会計

常盤財産区特別会計は、能代地域の常盤財産区の財産管理を行うための特別会計である。

1 決算規模

①能代市

(単位：円、%)

区 分	予算現額	歳入決算額	歳出決算額	歳入歳出差引額	予算執行率	
					歳入	歳出
17年度	3,402,000	3,401,096	3,177,823	223,273	100.0	93.4
16年度	2,852,000	2,977,350	2,610,585	366,765	104.4	91.5
比較増減	550,000	423,746	567,238	-143,492	-4.4	1.9
増減率	19.3	14.2	21.7	-39.1	—	—

①能代市は、平成18年3月20日までの打ち切り決算で、歳入歳出差引額は223,273円であり、同額が歳計剰余金として新市に引き継がれている。

②新市

(単位：円、%)

区 分	予算現額	歳入決算額	歳出決算額	歳入歳出差引額	予算執行率	
					歳入	歳出
17年度	101,000	266,122	0	266,122	263.5	0.0

②新市は、平成17年度における合併後の11日間の決算である。

歳入歳出差引額は266,122円で、能代市からの歳計剰余金223,273円が歳入に含まれている。

③通年推計（参考）

(単位：円、%)

区 分	予算現額	歳入決算額	歳出決算額	歳入歳出差引額	予算執行率	
					歳入	歳出
17年度	3,402,000	3,443,945	3,177,823	266,122	101.2	93.4
16年度	2,852,000	2,977,350	2,610,585	366,765	104.4	91.5
比較増減	550,000	466,595	567,238	-100,643	-3.2	1.9
増減率	19.3	15.7	21.7	-27.4	—	—

③通年推計は、監査委員が独自に通年ベースの数値を推計したものである。

当年度の決算額は、歳入3,443,945円、歳出3,177,823円、歳入歳出差引額266,122円となっている。前年度と比較して歳入で466,595円（15.7%）、歳出567,238円（21.7%）、それぞれ増となっている。

2 予算の執行状況

ここでは、合併前・合併後に分離せず、通年ベースで推計した数値のみ記載している。
 なお、予算現額は、別々に推計していることから歳入と歳出が一致しない場合がある。

①歳入

(単位：円、%)

区 分	予算現額	調定額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	収入率
県 支 出 金	258,000	258,407	258,407	0	0	100.0
財 産 収 入	44,000	78,566	78,566	0	0	100.0
繰 入 金	1,738,000	1,738,000	1,738,000	0	0	100.0
繰 越 金	366,000	366,765	366,765	0	0	100.0
諸 収 入	996,000	1,002,207	1,002,207	0	0	100.0
歳 入 合 計	3,402,000	3,443,945	3,443,945	0	0	100.0

県支出金の収入済額は258,407円で、流域循環林整備事業費補助金である。

財産収入の収入済額は78,566円で、前年度と比較して59,188円(43.0%)の減となっておりこの主な内容は土地売払収入及び基金利子である。

繰入金の収入済額は1,738,000円で、前年度と比較して643,000円(58.7%)の増であり、これは基金繰入金である。

繰越金の収入済額は366,765円で、前年度繰越金である。

諸収入の収入済額は1,002,207円で、この主な内容は森林整備地域活動支援交付金である。
 なお、新市では、旧市町歳計剰余金として223,273円の収入済額となっているが、通年ベースで推計した場合、重複したものとして差し引かれるため、本表には同金額を表していない。

②歳出

(単位：円、%)

区 分	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額	執行率
管 理 会 費	291,000	236,509	0	54,491	81.3
総 務 費	3,111,000	2,941,314	0	169,686	94.5
歳 出 合 計	3,402,000	3,177,823	0	224,177	93.4

管理会費の支出済額は236,509円で、この主な内容は財産区管理委員報酬である。

総務費の支出済額は2,941,314円で、前年度と比較して629,433円(27.2%)の増となっている。この主な内容は、間伐枝打作業委託料等の財産管理費である。

鶴形財産区特別会計

鶴形財産区特別会計は、能代地域の鶴形財産区の財産管理を行うための特別会計である。

1 決算規模

①能代市

(単位：円、%)

区 分	予算現額	歳入決算額	歳出決算額	歳入歳出差引額	予算執行率	
					歳入	歳出
17年度	1,552,000	1,665,795	1,381,228	284,567	107.3	89.0
16年度	2,124,000	2,126,055	2,030,656	95,399	100.1	95.6
比較増減	-572,000	-460,260	-649,428	189,168	7.2	-6.6
増減率	-26.9	-21.6	-32.0	198.3	—	—

①能代市は、平成18年3月20日までの打ち切り決算で、歳入歳出差引額は284,567円であり、同額が歳計剰余金として新市に引き継がれている。

②新市

(単位：円、%)

区 分	予算現額	歳入決算額	歳出決算額	歳入歳出差引額	予算執行率	
					歳入	歳出
17年度	49,000	307,422	0	307,422	627.4	0.0

②新市は、平成17年度における合併後の11日間の決算である。

歳入歳出差引額は307,422円で、能代市からの歳計剰余金284,567円が歳入に含まれている。

③通年推計 (参考)

(単位：円、%)

区 分	予算現額	歳入決算額	歳出決算額	歳入歳出差引額	予算執行率	
					歳入	歳出
17年度	1,552,000	1,688,650	1,381,228	307,422	108.8	89.0
16年度	2,124,000	2,126,055	2,030,656	95,399	100.1	95.6
比較増減	-572,000	-437,405	-649,428	212,023	8.7	-6.6
増減率	-26.9	-20.6	-32.0	222.2	—	—

③通年推計は、監査委員が独自に通年ベースの数値を推計したものである。

当年度の決算額は、歳入1,688,650円、歳出1,381,228円、歳入歳出差引額307,422円となっている。前年度と比較して歳入で437,405円(20.6%)、歳出649,428円(32.0%)、それぞれ減となっている。

2 予算の執行状況

ここでは、合併前・合併後に分離せず、通年ベースで推計した数値のみ記載している。
なお、予算現額は、別々に推計していることから歳入と歳出が一致しない場合がある。

①歳入

(単位：円、%)

区 分	予算現額	調定額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	収入率
財 産 収 入	99,000	213,023	213,023	0	0	100.0
繰 入 金	1,146,000	1,146,000	1,146,000	0	0	100.0
繰 越 金	95,000	95,399	95,399	0	0	100.0
諸 収 入	212,000	234,228	234,228	0	0	100.0
歳 入 合 計	1,552,000	1,688,650	1,688,650	0	0	100.0

財産収入の収入済額は213,023円で、前年度と比較して88,539円(71.1%)の増となっておりこの主な内容は土地貸付収入及び土地売払収入である。

繰入金の収入済額は1,146,000円で、前年度と比較して86,000円(7.0%)の減であり、これは基金繰入金である。

繰越金の収入済額は95,399円で、前年度繰越金である。

諸収入の収入済額は234,228円で、この主な内容は森林整備地域活動支援交付金である。なお新市では、旧市町歳計剰余金として284,567円の収入済額となっているが、通年ベースで推計した場合、重複したものとして差し引かれるため、本表には同金額を表していない。

②歳出

(単位：円、%)

区 分	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額	執行率
管 理 会 費	138,000	89,700	0	48,300	65.0
総 務 費	1,414,000	1,291,528	0	122,472	91.3
歳 出 合 計	1,552,000	1,381,228	0	170,772	89.0

管理会費の支出済額は89,700円で、これは財産区管理委員報酬である。

総務費の支出済額は1,291,528円で、前年度と比較して580,428円(31.0%)の減となっており、この主な内容は賃金等の財産管理費である。

檜山財産区特別会計

檜山財産区特別会計は、能代地域の檜山財産区の財産管理を行うための特別会計である。

1 決算規模

①能代市

(単位：円、%)

区 分	予算現額	歳入決算額	歳出決算額	歳入歳出差引額	予算執行率	
					歳入	歳出
17年度	9,734,000	9,611,471	9,702,894	-91,423	98.7	99.7
16年度	6,310,000	6,349,213	6,082,799	266,414	100.6	96.4
比較増減	3,424,000	3,262,258	3,620,095	-357,837	-1.9	3.3
増減率	54.3	51.4	59.5	-134.3	—	—

①能代市は、平成18年3月20日までの打ち切り決算である。

歳入歳出差引額は91,423円の赤字で、一般会計からの繰替使用91,423円で賄っている。

②新市

(単位：円、%)

区 分	予算現額	歳入決算額	歳出決算額	歳入歳出差引額	予算執行率	
					歳入	歳出
17年度	124,000	135,467	91,423	44,044	109.2	73.7

②新市は、平成17年度における合併後の11日間の決算である。

歳入歳出差引額は44,044円で、能代市における一般会計からの繰替使用91,423円は、平成17年度出納閉鎖までに一般会計へ全額返済されている。

③通年推計(参考)

(単位：円、%)

区 分	予算現額	歳入決算額	歳出決算額	歳入歳出差引額	予算執行率	
					歳入	歳出
17年度	9,702,894	9,746,938	9,702,894	44,044	100.5	100.0
16年度	6,310,000	6,349,213	6,082,799	266,414	100.6	96.4
比較増減	3,392,894	3,397,725	3,620,095	-222,370	-0.1	3.6
増減率	53.8	53.5	59.5	-83.5	—	—

③通年推計は、監査委員が独自に通年ベースの数値を推計したものである。

当年度の決算額は、歳入9,746,938円、歳出9,702,894円、歳入歳出差引額44,044円となっている。前年度と比較して歳入で3,397,725円(53.5%)、歳出で3,620,095円(59.5%)、それぞれ増となっている。

2 予算の執行状況

ここでは、合併前・合併後に分離せず、通年ベースで推計した数値のみ記載している。
なお、予算現額は、別々に推計していることから歳入と歳出が一致しない場合がある。

①歳入

(単位：円、%)

区 分	予算現額	調定額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	収入率
県 支 出 金	785,000	785,512	785,512	0	0	100.0
財 産 収 入	344,000	356,521	356,521	0	0	100.0
繰 入 金	7,290,000	7,290,000	7,290,000	0	0	100.0
繰 越 金	266,000	266,414	266,414	0	0	100.0
諸 収 入	1,049,000	1,048,491	1,048,491	0	0	100.0
歳 入 合 計	9,734,000	9,746,938	9,746,938	0	0	100.0

県支出金の収入済額は785,512円で、流域循環林整備事業費補助金である。

財産収入の収入済額は356,521円で、前年度と比較して405,513円(53.2%)の減となっており、この主な内容は土地売却収入及び基金利子である。

繰入金の収入済額は7,290,000円で、前年度と比較して6,688,000円(1111.0%)の増であり、これは基金繰入金である。

繰越金の収入済額は266,414円で、前年度繰越金である。

諸収入の収入済額は1,048,491円で、この主な内容は森林整備地域活動支援交付金である。

②歳出

(単位：円、%)

区 分	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額	執行率
管 理 会 費	346,849	346,849	0	0	100.0
総 務 費	2,827,045	2,827,045	0	0	100.0
諸 支 出 金	6,529,000	6,529,000	0	0	100.0
歳 出 合 計	9,702,894	9,702,894	0	0	100.0

管理会費の支出済額は346,849円で、この主な内容は財産区管理委員報酬である。

総務費の支出済額は2,827,045円で、前年度と比較して2,913,567円(50.8%)の減となっている。この主な要因は、前年度実施された作業路開設工事の減によるものである。

諸支出金の支出済額は6,529,000円で、前年度は実績がなく、この内容は各自治会へ交付金を交付するための一般会計繰出金である。このうち、上母体自治会交付金へ充てられる繰出金については、一般会計で前述のとおり、緊急を要することから、いったん一般会計の予備を充用し、事後に特別会計から繰り入れしている。

なお、諸支出金については、新市における支出済額が91,423円となっているが、これは旧市町借入金返済金で、合併時の一時借入金の返済であり、通年ベースで推計した場合、重複したものと差し引かれるため、本表には表していない。